
 教えて  
ドクター


# 発症が多い、40歳代～50歳代 定期的な検診と自己触診を

大阪プレストクリニック  
院長  
芝英一先生



1977年、大阪大学医学部卒業。  
アメリカ・ハーバード大学医学部  
留学、大阪大学医学部腫瘍外科  
助教授を経て、2005年に大  
阪プレストクリニックを開設。  
日本乳癌学会認定専門医

日本人女性の16人に1人は、乳がんにかかる可能性があるとされ(※)、私は大丈夫という油断は禁物。定期的な検診はとて大切で、大阪プレストクリニックの芝英一先生に、乳がんの発症傾向と検診について教えてもらいました。  
※国立がん研究センターがん対策情報センターによる。




## マンモグラフィで しこりと石灰化を確認

年々、乳がんにかかる人は増え続けています。注意したい年代は、40歳代～50歳代で、このほか初潮が11歳以下や閉経が55歳以上と月経の期間が長い人、出産・授乳経験がない人、初産が35歳以上の人、肥満の人は、乳

がんのリスクが高いときです。大阪市の乳がん検診は、40歳以上の場合、問診、マンモグラフィ、視触診を行います。レントゲン検査のマンモグラフィでは、しこりの影や、乳がんに関連するといわれ

る石灰化(カルシウムの沈着)の影を確認します。撮影は、40歳代は上下・斜めの上方向から、50歳代は斜めのみ上方向から。このとき乳房を挟んで圧迫するため、人によって痛みを伴う場合がありますが、乳房を薄くす



## 早期に発見できれば 乳房温存治療も

マンモグラフィで、しこりや石灰化の影が認められると、精密検査となりますが、その対象は受診者の約5%。乳がんと診断されるのは、さらにそのうちの5%ですが、大半は早期の乳がんです。現在は薬の開発や治療法が進んでいるため、早期に発見できれば乳房を温存する治療も可能です。し、治療した10年後の生存率は90%というデータもあります。

早期の乳がんは、痛みや違和感がなく、自分では分かりにくいものです。また、「乳がんと診断されるのが怖い」という人がいるかもしれませんが、受診を先延ばしにし

ることで、異変が見つかりやすくなります。リラックスを心掛けるほか、生理前は乳房が張りやすいため、月経が終わった3日～1週間後に受診すると、痛みが軽くて済む場合があります。

た結果、乳がんが見つかったときには、重症化していることもあり、自治体では2年に1回、乳がん検診を受診するように案内していますが、年1回の受診が理想です。また、毎月1回は自己触診を。方法はあおむけになり、親指以外の指をそろえて指の腹で乳房全体を滑らせるように触れます。月経開始10日目ごろか、閉経後の方は日にちを決めて行うといいですね。

大阪府の乳がん検診の受診率は、全国平均と比較して特に低い結果でした。40歳代・50歳代の女性は、家庭や職場で重要な存在。もし乳がんが見つかったら、早期に発見できれば生活の質を変えずに済み、周囲の負担も軽減されます。ぜひ積極的に検診を受診しましょう。